

指導活用技術
分類名〔病害虫〕

指 17	ナシ品種「あきづき」のナシ黒星病耐病性
------	---------------------

宮城県農業・園芸総合研究所

要約

近年、県内で作付面積が増加してきているナシ品種「あきづき」について、黒星病に対する耐病性の程度を明らかにした。本品種は、本県の主要品種「幸水」と比較して、葉及び果実における黒星病の発生が少なく、本病に対する耐病性が「幸水」よりも優れていることが明らかとなった。

普及対象：普及指導員及び営農指導員
普及想定地域：県内全域

1 取り上げた理由

ナシ黒星病対策として、化学薬剤による防除は不可欠であるが、他県ではDMI剤等に対する薬剤耐性菌の出現が確認されるなど、対策に苦慮している事例が見受けられる。そのため、薬剤防除に頼るだけでなく、ナシ品種の持つ黒星病耐病性も活用することが有効と考えられる。

ここでは、農林水産省果樹試験場（現果樹研究所）で育成され、本県でも「豊水」に続く有望品種として、近年栽培面積が増加している「あきづき」について、黒星病に対する耐病性の程度が明らかとなったので、指導活用技術とする。

2 指導活用技術

- (1) 果実における発病は、「幸水」より「あきづき」で少ない（図1）。
- (2) 果そう葉における発病も、ナシの生育期間を通し「幸水」より「あきづき」で少ない（図2）。
- (3) 苗木への接種による試験でも、葉における発病は「幸水」より「あきづき」で少ない（図3）。

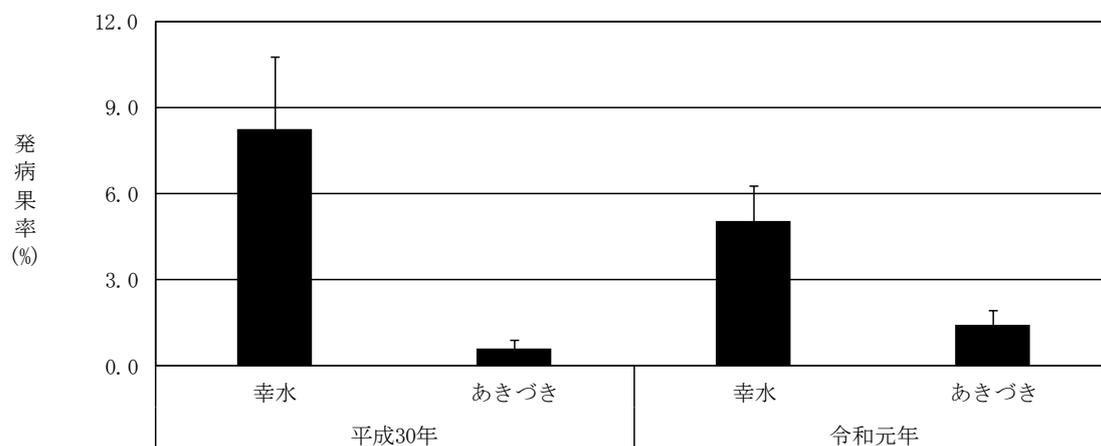


図1 ナシ黒星病発病の品種間差（発病果率，平成30年及び令和元年）
調査の概要：現地圃場8月中下旬調査，薬剤散布等の管理は両品種ともに同様
バーは標準誤差

3 利活用の留意点

- (1) 果実及び果そう葉における発病状況結果（図1及び図2）は、ナシ栽培現地におけるものであり、両品種ともに同様の薬剤防除を行っている。
- (2) 「あきづき」においても、気象条件等によっては黒星病が多発する可能性があるため、薬剤防除体系は他品種と同様に実施する必要がある。

（問い合わせ先：宮城県農業・園芸総合研究所 園芸環境部 電話 022-383-8125）

4 背景となった主要な試験研究の概要

(1) 試験研究課題名及び研究期間

モモ・ナシの高品質・安定生産を実現する病害防除技術体系の実証研究（平成 28～30 年度）
農作物有害動植物発生予察事業（令和元年度）

(2) 参考データ

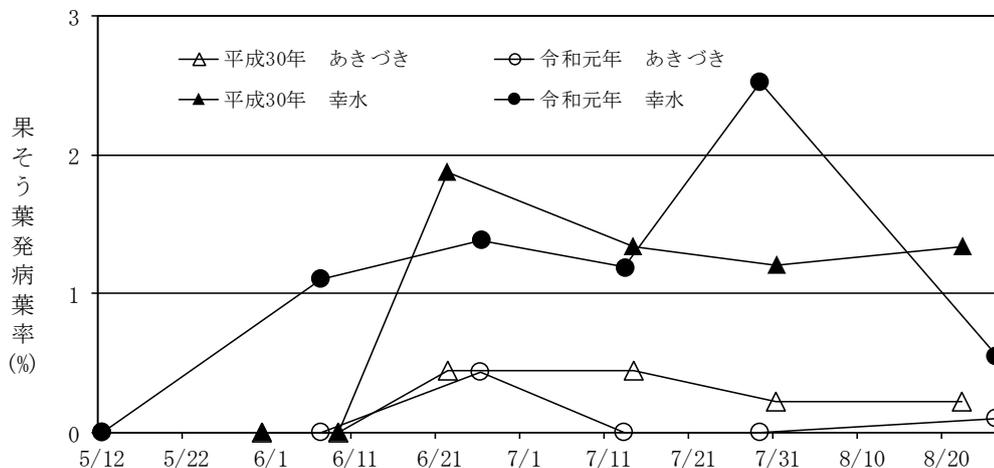


図2 ナシ黒星病発病の品種間差 (果そう葉発病率, 平成30年及び令和元年)
調査の概要：現地圃場調査，薬剤散布等の管理は両品種ともに同様
バーは標準誤差

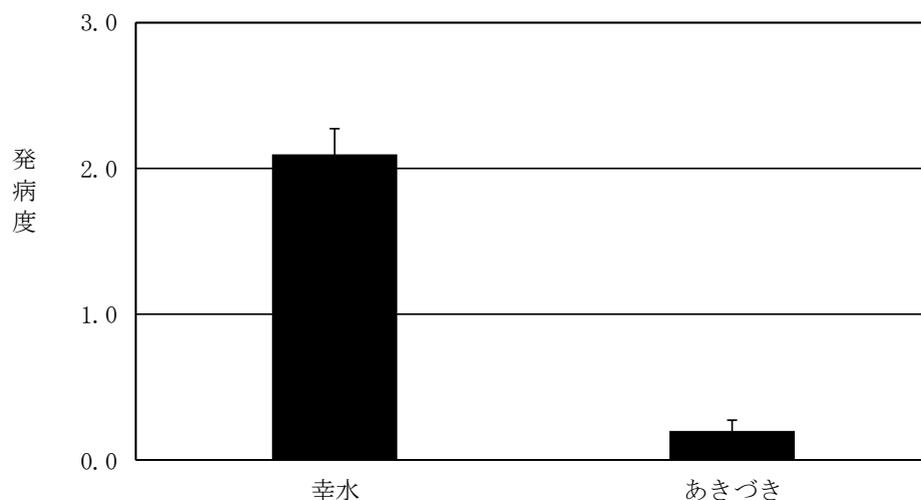


図3 ナシ黒星病発病度の品種間差 (発病度, 令和元年)
調査の概要：苗木の葉に対する接種試験，殺菌剤は無散布
バーは標準誤差

(3) 発表論文等

イ 関連する普及に移す技術

落葉処理によるナシ黒星病被害軽減効果（第94号参考資料）

ロ その他

大場淳司・近藤誠・木村智志（平成31年），平成31年度日本植物病理学会講演要旨予稿集

(4) 共同研究機関

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹茶業研究部門ほか